

令和5年度 第1回川崎市住居表示懇談会 会議録

- 1 開催日時 令和5年11月27日（月）午後2時52分から午後3時48分
- 2 開催場所 川崎市役所市民文化局会議室
- 3 出席者 委員 遠藤委員、大西委員、小田委員、菊地委員、宮地委員、吉田委員
（五十音順）
事務局 山根部長、大貫課長、栗原課長補佐、松本職員、石井職員
議題者 まちづくり局登戸区画整理事務所換地担当
石川担当課長、谷田貝担当係長、岡野職員

- 4 議題 （1）登戸土地区画整理事業に伴う町名の変更について（公開）
- 5 傍聴人 なし
- 6 会議内容（要約方式）

【開会のあいさつ】 市民文化局市民生活部山根部長

【議題 登戸土地区画整理事業に伴う町名の変更について】

・資料に基づき登戸区画整理事務所換地担当（以下、登戸区画）から説明

事務局 資料及び説明に対する御質問はございますか。
（質問なし）

事務局 それでは、ただいまの説明にありました町名変更の3案につきまして、それぞれのお立場から御意見を賜りたいと存じます。

菊地委員 もう区画整理は進んでいるということで過去の話になってしまうが、登戸の町をどんなふうにしたいのかということが、非常に大きな意味があると思っています。その中で大変残念なのは、「つくいみち（津久井道）」がこの場所で完全に寸断というか消滅という状況になっているわけですね。善立寺さんのところからカギになっているところの部分が若干そうになっているかなということと、北向地蔵さんがとりあえずは光明院さんに預けられているというような形で、いわゆる登戸を伝えていくその部分が完全に消えてしまっています。今「川崎の町名」を作成していて、区画整理のところにも聞き取り調査に行ったのですけれども、結局登戸がどういう形になっていくのかはわからずにここに至っていることになるのです。町名を決めるだけでなく、その辺をどう考えているのかと。今回の場所の中で、確かに駅を中心とした中央には間違いのないわけですが、住民の方たちにも、このまちをどういう風に変えようとしているかなど、その辺

をレクチャーするといった順序を踏んでいかないと。アンケートでこういう案がきています、皆さんどういう町名にしますかという形になってしまうと、どうしてもそこにだけ意識がいつてしまうわけです。その辺が地名を研究しているグループとしては気になるところです。

それから、ちょっと付け足しますと、資料にはありませんが、登戸という町、村が発足するにあたって、明治の初期に字（あざ）を全て、甲乙丙丁という番号順とおりに振られるわけです。隣の宿河原もそうなのですけれど、宿河原壱号耕地、弐号耕地とあったわけですね。登戸も壱号、弐号とすると、隣と同じで分からなくなるということで、甲乙丙丁という形で振ったわけです。

そうすると地元の人たちは、自分たちの村はどういう村であるかということ意識するために、江戸時代からあるその地名だとか、通称でいわれるようなものを維持してきたわけです。先程の3案の中に、「中」という名前が入るといのも、そういうところを意識しているわけです。

今回はこの3つの提案なんですが、私としては、この先も意識した形でいかないと、町名に1、2、3と振ったから今度は4から8までふるのか、それともとりあえず今回の部分だけでいいという感覚なのか、そういうのを意識しないと、まずいのではないかというところが危惧するところです。以上です。

事務局 ありがとうございます。他に御意見はございませんでしょうか。

小田委員 一応、今度この3案でアンケートをするということですけど、私たちがここで意見を言ったことは、どういう風に、例えばそのアンケートの中にか反映できることはあるのでしょうか。

登戸区画 はい。この3案は検討委員会の方で決めまして、やはり町会の代表者の方なので、名前についてどうかというのを非常に不安に思っらっしゃる方もいらっしゃるので、川崎市の方でこういった懇談会という場がありますので、この3案について意見を聞いてまた報告させていただきますという説明をさせていただいております。今日いただいた御意見を検討委員会に説明して、それを踏まえてその案を変えるかどうかというのをまた議論していくことになっていきます。

小田委員 たとえば今菊地委員の方から、この町をどういうまちにするのか、この町の歴史的な背景をどうい風に考えたらいいのかというようなことが、既に問題提起はされていたかもしれませんが、これから検討委員会の中でも話していただける機会はあるのでしょうか。

登戸区画 今まで検討委員会でも、このまち（町名）をどうしていこうかという話も踏まえて議論はされていまして、大きく最初のポイントとして、区画整理事業区域外の方は住居表示の意向がないということが、本当なのかを確かめる議論がありました。その中で、区画整理は半強制的に住所を変えることになりませんが、区域外の方は、なぜ変える必要があるのかということもありまして、その辺の意見の衝突もあつたりしました。津久井道についても、やはりその道の形状と異なる形で区画整理の道路が計画をされていまして、なるべく区画を整えるために、世田谷町田線や小田急小田原線に平行になるような形で街区道路を設計する都合上、津久井道が合わなくなってしまう形になっています。将来のまちについては、登戸のまちづくりビジョンというものを、区画整理事務所で作っていまして、駅中心に賑わいがあるようなまちにしましょうということを行政の方で掲げています。地元としては、実際の検討委員会の中では、今現在、区画整理で家を壊してまた建替えている都合上、人の出入りが希薄になってしまったことを危惧されています。この町の名前の付け方についても、今までどおり「登戸」のまま、地番を変えるだけでいいという意見も多かつたり、新しくなるのだから新しい町名にしましょうという意見があつたり、アンケート結果も6：4くらいと、そんなに大差つくような形ではありませんでしたが、議論する中で新町名にしようという形に決まっていきました。

小田委員 もう区画整理で街並みがだんだん変わってきたので、今の段階で意見なかなか言えないかと思うのですが、私は柳田国男の研究をしております、今の北向地蔵のところから、柳田国男の散歩道で、以前3回ほど歩いたときに、紀伊国屋の榎戸から生田の方に行くところがずっといい散歩道で、街並みにある表示を見ると、地元の人が、津久井街道も含めた街並みをすごく愛しているのだなという気持ちが伝わってきました。そういう地元の人たちも検討委員会には入っていただいているのだから、今となってはもうこの街並みになってからは難しいけど、ちょっと残念だねというような御意見もあるのでしょうか。たとえば、ここは「なか」と呼ばれていたのですから、「町」をつけなくても、「中」という町名でいいと思うのです。そのくらいの意見はなかったのですか。

登戸区画 歴史的な部分についての意見は、昔、稲荷神社があつたなどの話が出てくるくらいで、歴史を残すというような、議論はそれほど多くありませんでしたが、せっかく津久井道という文化的なものがありましたので、今、事務所の方で、この道路の一部にデザインマンホールという形で歴史を残そうとしています。津久井道とか歴史を感じられるマンホールのデザインというのを公募しまして、つい最近マンホールのデザインが決まりました。実際の津久井道には沿っていない

のですけれども、そういった取組もしています。

吉田委員

今、先生方がおっしゃった、津久井道の景観とともに地割りが失われていくということについては非常に残念だというのは、本当に共感しております。計画道路を調べたところ、道が沿っていないというのがよく分かりました。これはもう一部ずつ進めていらっしゃるということですよ。

その上で、一つは、区域外の登戸の地番を持っているところが、今後また新たに整理をする形が予定されることがありうるのか、それならまた町名を付けることが起きる場合を想定して、今回の町名も考えた方がいいだろうと思うので、将来をどうされるのかというのは、区画整理の問題として伺いたいです。それから二つ目ですが、私も歴史をやっているのですが、かつての地名を、地名といいますか、武蔵風土記稿で、見られる範囲で確認してきました。どうも、登戸という範囲には2つ中心があるように、歴史的には書いてあるようです。一つは、先程の「中」というところの中心部は、光明院のあたりがそれにあたるということでした。今登戸稲荷神社にあたる部分は、むしろ東耕地にあたるようです。善立寺は、どちらかというとも東南の方向という位置づけで、江戸時代の集落のイメージができていくということですので、もしかしたらその「中」という地名は、区画整理をした対象とはちょっとずれていて、江戸時代の登戸村という広大な村の中で言えば、これは東（ひがし）東南の方にあたるという風に、ずれているのではないかと思います。むしろ、津久井道に沿った宿場、津久井宿という位置づけで考えると、ちょうど高札場が建っているところが宿（しゆく）の中心になるわけですけども、それが善立寺や津久井道の非常に近いところにあたる。ですから新区画の今資料に書かれている新町名2丁目、3丁目の中央部分がそこにあたるというような位置づけかなと思います。ですから、「中」という古い地名のイメージで「中町」とつけてしまうと、ちょっとずれがあるのではないかと思います。あとは、先ほど将来を考えると、もしかしたら、中央とか中町とかつけない方が、将来何丁目という風にして、広がりを持たせることができるのかなというのはちょっと思いました。一つだけ、将来の整理について教えてください。

登戸区画

先程もお話にあった将来のことについてですが、住居表示は今現在は熟度が高まっていないので実施しないということですが、今の町名の検討委員会には、当然将来のことも考えて、区画整理事業区域外の方も入っていただけて進めています。

その中で、今現在は登戸1～3丁目という意見が強く、そうなると続きで付けていく場合、1丁目2丁目3丁目の後、4丁目5丁目と上の方にいきますと、今度下の方が分断されてしまって、5丁目以降は飛ばしでできないというこ

ともあったりするので、その辺は、3丁目という区域を変えるなど、番号をつけていくとそういった可能性も出てきますよというお話をさせていただいています。そういうことも含めて、今回登戸中央となれば、区域外には昔の地名である台町とか、南町（みなみちょう）とか、それぞれに付けられるのではないかという意見もあったりしました。

「中」についてですが、稲荷神社周辺が「中」という御意見もあったので、「中町」という案はどうかと出てきたような形でございます。

将来のことを考えて色々議論はしていたんですけど、今も区域外の町会の住居表示実施への意向がとれないという中で、いつ実施になるかわからないことを考慮して議論するのも、発展性がないというか、それよりも今の区域がどうなるか、そこが重要だろうというような検討委員会の流れになりました。そこで今の考えを生かすような形で、今回はひとつの名前にして、1丁目、2丁目、3丁目という連番にしようという結論から、新町名で通し番号を丁目でつけるというような案に落ち着いた経緯があります。

菊地委員 「中」について、ちょっと蛇足なんですけど、多摩区役所がなぜあそこにあるかというと、世田谷町田線の反対側の、光明院さんのすぐ隣に、最初の村役場があったのです。それから町役場にもなって、それが今の区役所近くの方に移動していった。そしてそこに、町役場と併せて、稲田の図書館もあったのです。ずっと経過して、総合庁舎としての区役所を作るにあたって、候補地が今の場所に移っていったということで。いわゆる、村の中心という、もともとの役場があった場所なので、「中」とか「中村」なんですよ。稲荷神社のところが、「あずま」とか「ひがし」と言われているのは、字をつけるときの地番の関係で、あそこだけ入り込んでいて、お隣同士だけれども、「中」とか、重なりがあるそういう場所ということです。区役所のある周辺がもともと「中村」、中心というふうに言われていたのは、そこにもともと明治時代の役場があったことが町名の下積みだった。

吉田委員 ありがとうございます。武蔵風土記稿にも、「中」「中村」というふうにあって、稲荷社は「東」と書いてあるわけで、19世紀前期にはそういう地名になっていたようです。

菊地先生 ただ、今の人達にとっては、「中」とか「中央」は、駅周辺という意識になっていますから、そういう意味で、多摩区役所がちょっと遠いところにあるのはそういうことです。

事務局 ありがとうございます。委員の皆様から御意見をいただきたいと存じますので、事務局の方から指名をさせていただければと思います。

住居表示の場合は土地の地番は変わらないで建物の住所だけ変わりますが、今回の区画整理事業という土地の地番が変わります。登戸のままですと、登戸何千番地になるところに、新たな土地の地番が振られることになるんですけど、法務局の宮地委員から見ますと、そういった土地の変更というところから、今回の3つの案に関しまして、何か思うところがありますでしょうか。

宮地委員 今回1丁目、2丁目、3丁目というふうに登戸地区の真ん中のところを変更すると、その後残ったところはどうなるのかなというのはあります。また違う町名がつけばいいんでしょうけど、登戸1丁目、2丁目、3丁目という言い方だと、やはり1丁目の隣が2丁目というイメージを皆さんお持ちになられるので、どうなるのかなと。来庁者の皆さんが、自分の所在の不動産の情報を必ずしも把握して来られるわけではないので、もし「登戸中町」ですと、「登戸新町」という町名と混同しやすくなるかなと思うので、似たような町名は避けた方がいいかなという感じはします。

事務局 もし住居表示を今後実施することになった場合、新町名に繋げた町名にするということになれば、なるべくお隣同士で順序良くという流れになって、今回の部分からすごく飛んだ番号の町名にすることはできる限り避けると思われまます。そのときの検討次第ですが、この資料の区画整理事業区域の上側と下側は別の町名をつけるということになれば、その町名の中でまた1、2、3とつける可能性もございます。もし区画整理区域の方々も、住居表示と一緒に実施するという御判断になった場合は、全体でもう一度町名を振り直すということも、可能性としてはございます。

事務局 続きまして、大西委員にお尋ねしますが、郵便配達の観点から、何かこの3つの町名の案につきまして、思うところはございませんでしょうか。

大西委員 町名のところにつきましては、正直どの町名になったとしても問題はないかと思うのですが、先程から出ていますとおり、登戸地区の左上側と右下側の間に新しい町名が入るということで、郵便局としましては、配達のとくにちょっと混乱するかなとは思いますが、案の町名が間に入ってしまって、おそらく郵便番号も新しく付番されるのではないかと思われまます。上下のところは、今までと同じ郵便番号でそのままいくと思うので、何番から何番までは上の方、何番から何番までは下の方、と郵便番号が一緒でも、分けなければいけなくなってくるかなと。

実際に、そういった場所はほかでもございますけども、やはりその分かれた直後は、郵便局の中でもかなり混乱をまねいているというのは事実ありますので。今後、どういうかたちで変化していくのか分かりませんが、これは窓口の希望になってきますが、今回1、2、3丁目という新町名がつくのであれば、たとえば登戸の、あえて北側南側とお話させていただきますけれども、それぞれもまた別の新しい町丁名を付けていただいた方が、手前勝手ですけども、郵便局としては配達をしやすくはなるのかなというところではあります。

事務局 ありがとうございます。

区画整理事業ということで、道路なども新しく整備されます。警察というお立場から、今回の町名変更、3案について何か思うところがございましたらよろしくお願いたします。

遠藤委員 警察としては、それぞれ、地域の代表の方が考えてアンケート等に出ている結果ですので、まちの皆様が一番よろしければということですね。場所については、住所が変わろうが、必要があればその場所に行くだけですので、地域の方優先でよろしければいいのかなと思います。

事務局 ありがとうございます。今回は、皆様からの御意見を、できるかぎり登戸区画整理事務所の方から地域の皆様の方へ御報告をいただきまして、その御意見を参考にまた検討の方を進めていくということになろうかと思います。登戸区画整理事務所、石川担当課長から委員の皆様には何かございますでしょうか。

登戸区画 今日色々、貴重な御意見ありがとうございます。先ほどおっしゃったまちのイメージについて確認して、描きながら考えていってくださいともう一度投げかけてみようと思っております。将来住居表示をするときになっても変更のないような形でできないかと、地元の方にお話ししておりますが、住居表示実施の全体意思統一がない中では、今は将来についての議論はやめて、区画整理区域内のみについて考えていきたいという話がありました。もちろん仲違いではなく、区域外の方も検討委員会に参加して下さっていますし、実施のときはまた全体で考え直そうという話もされていて、そのときは地区全体でもう一度検討する流れになってくるのかなと思います。皆様おっしゃられたように、将来的なことについては我々も同じように考えておりますので、将来どうまちをイメージされるかというのを投げかけてみて、もう一度この3案について確認していきたいと思っております。今日は貴重な御意見をどうもありがとうございました。

事務局 本日貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。 以上